



アンダンテ

君と僕 互いの力生かし合う
共同参画パートナー

「アンダンテ」…「歩くくらいの速さで、ゆっくり演奏」という意味の音楽記号
男女共同参画の理解や取り組みが「じっくりと自分のペースで進む
ように」という期待を込め、名付けました。

No.20



～性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に
そして、自分らしく生きていくために～

男女共同参画社会に向けた作品展

登別市では、男女共同参画社会について家庭や学校、職場、地域で考えるきっかけとしてもらうため、
標語や習字、ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品を募集し、市民会館に募
集作品全てを展示する作品展を開催しています。

令和5年度は、市内外の小・中・高校生から標語 188 点、習字 807 点、ポスター16 点が寄せられまし
た。

その中から、**ポスター・標語・習字の最優秀作品** を紹介します！



鷲別中学校 遠藤 帆華

その個性
輝く未来
つくる鍵
幌別西小学校六年
飯島 百合

一人一人の
個性がかがやく
明るい未来へ
富岸小学校五年
高屋敷 幸也

はたらく母
家事する父も
かっこいい
幌別西小学校四年
寺井 はづき



登別青嶺高等学校
3年
網淵 和奏



幌別中学校
3年
今田 琴葉



幌別西小学校
6年
寺井 星南



幌別西小学校
5年
榎本 佳乃花



幌別西小学校
4年
寺井 はづき

登別市男女共同参画フォーラム 2023 開催！



日 時：令和5年12月9日（土）
13時30分～15時00分
会 場：登別市民会館 中ホール
テーマ：持続可能な開発 ～多様性と協働の重要性～
講 師：RCE 北海道道央圏協議会
事務局長 有坂 美紀 さん

登別市男女共同参画社会づくり推進会議が主催し、北海道立女性プラザ連携事業として「男女共同参画フォーラム 2023」を開催、52名の参加がありました。

有坂さんは、持続可能な開発とは「一番やっかいなところから手をつけること」であり、例として差別、住んでいる場所、社会的経済的地位の違い、意思決定の仕組み等が遅れていること等をあげられました。その中でジェンダー平等の重要性について、ジェンダーギャップ指数を例に146カ国中、日本は125位であり今年過去最低を記録したことを説明。日本は政治と経済分野における意思決定の場への女性の参画が少ないことを指摘。また、ジェンダー平等は多様な個性を大事にすることであり、女性だけ、男性だけの問題ではなく、どんな性の人であっても豊かな社会にするためには必要なことである。などが分かりやすく紹介されました。

参加者のアンケートから

- 講演内容が面白く素晴らしく行動体験に基づいた内容で説得力があった。
 - 知らなかった世界を知ることができて感動。社会のために人のためにできることを続けていきたい。
 - 多感な時期の中学生や高校生にも学校の授業の一環で受ければ夢や希望が広がり社会環境への意識が変わってくる。
- など、たくさんの感想をいただきました。

令和5年度 登別市男女共同参画社会に向けた作品展表彰式

市内外の児童・生徒から応募いただいた「標語・習字・ポスター」の1,011点の作品から入賞作品29点を選考し、12月9日市民会館中ホールにて表彰式を執り行いました。

当日は22名の受賞者の児童生徒とその保護者の方々が集まり、小笠原市長より受賞者一人ひとりに賞状を、登別市男女共同参画社会づくり推進会議 千葉早苗委員長より記念品のフレームが手渡されました。

また、表彰式終了後には、登別市男女共同参画社会づくり推進会議委員が作成した「男女共同参画に係るクイズ」を視聴し、子どもたちにも分かりやすく、楽しめる講演を行いました。

子どもたちには、ジェンダーにとらわれず、相手を尊重し、自分らしく生きることについて考えるきっかけになればと願っております。



小学4年生向け啓発冊子「あなたらしく、自分らしく！」アンケート結果

登別市では、男女共同参画冊子「あなたらしく、自分らしく！」を小学4年生に配布しています。また、児童と保護者を対象に「男女共同参画への意識を把握することを目的としたアンケート」を実施しましたので、集計結果を抜粋してご紹介します。

●児童アンケート回収率 73.6%

Q4.「女のくせに」「男のくせに」という言い方はない方がいいと思う。

区分	人数	令和5年度(%)	令和4年度(%)
はい	214	96.0	93.5
いいえ	9	4.0	6.5
無回答	0	0.0	0.0
どちらでもない	0	0.0	0.0
計	223	100.0	100.0

●保護者アンケート結果(回収率 47.2%)

Q2. 子育てにおいて、男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」と意識していますか。

区分	人数	令和5年度(%)	令和4年度(%)
はい	38	26.6	23.6
いいえ	103	72.0	71.7
無回答	1	0.7	0.5
どちらでもない	1	0.7	4.2
計	143	100.0	100.0

●アンケート結果から

児童アンケートでは、96%の児童が性別により社会的な役割が異なるという固定概念に基づいて行われる差別や嫌がらせの気持ちを持っていないことが伺えます。

保護者アンケートでは、子どもとジェンダーについて話をする事ができた、子どもの意思を知ることができた等、親子で一緒に取り組んだといったご意見をいただきました。



～地域で活躍する女性へのインタビュー～

成田山 瀧泉寺で住職をされている山瀬珠香さんにお話をうかがいました！

Q 僧侶になる前のお仕事と、僧侶となった理由は？

A 10年教師をしていた中で、悩みを抱えている子供達に関わる度に自分の無力さを痛感、人を助けるために自分自身をもっと強くしたいと思い始めた時に「出家」が頭に浮かび修行の道へ入りました。

Q 住職になって良かったと思えた出来事、また辛いと感じることは？

A 仏様の世界や死者との関わりなど亡くなってからもできることは僧侶にしかできないことです。ある相談者が仏様に手を合わせ、死のうと思ったけれど生きていてよかったと元気になる様子を見て、最後の砦であると感じる出来事がありました。

色々やってきて最終的に僧侶になったので辛いと思うことはありません。一度働いてから出家しましたが、しがらみなどがあるので一般社会の方が大変だと思います。社会経験したからこそ、アドバイスや相談に乗れることもあります。

Q 修行中、女性ゆえに大変だったこと、男女の違いを感じたことは？

A 同期は30人中、女性は4人で僧侶として対等にみてくれました。女だからダメだと言われないうちでこだわっていたのは自分自身だけでした。

お経の声のトーンが合わず、私の張り合いで声が潰れてしまい女性ゆえの苦しみがありました。

Q お父様の跡を継いで住職になろうと決意した理由や動機、経緯は？

A 尊敬する師が「縁のままに進め」と言われた言葉がきっかけです。父が病気を引退を考え始めた3年前、跡継ぎがいなかったこともあり住職となりました。(父は昨年他界)



Q 男女共同参画について意識していることは？

A 幼少期からの教育が非常に重要だと考えます。お寺では性的少数者の方も含め、様々な人が集まっています。性別に関係なく、「一人一人が自分らしくでいいんだよ」と伝えていきます。例えば男の子が赤いリボンで髪を縛りたいとき、『それって女の子のものだよ』と言われる子どもたちに、遊びに混ぜてそれが普通だということを伝え、そこから社会を変えていきたいと思っています。

Q 今後どのような住職を目指され、どんなお寺にしていきたいですか？

A 「生まれた命には意味がある」という命の繋がりを伝えていくことと家族や社会の仕組みが変わっていく時代に合ったお寺にしていきたいです。寺子屋やイベントなどを通してお寺を身近に感じられるように。また、仏様がいて下さるところに皆が来て癒やされ、元気になれるような居場所づくり、孤立しない環境を作りたいです。

女性プラザ祭 2023

札幌において、女性プラザ祭 2023 が開催されました。女性プラザ祭は、女性の自立と社会参加を促進し男女平等参画を推進するためセミナーや講演会などを実施しています。女性プラザが平成 3 年 11 月に開設したことを記念して毎年 11 月に行われ、関係団体と連携協力を図り多彩な事業が実施されています。

私たち登別市男女共同参画委員 4 名は、11 月 9 日（木）に参加しました。

午前の「女も男もワイワイセッション」では、「北海道における女性の政治参画」をテーマに札幌大学客員教授の中田美知子氏がコーディネーターとなり、議員 5 名でパネルディスカッションが行われ、議会において女性が一定数参加していないと、意見が反映されないという話がありました。

午後は「幸福度 6 年連続 1 位のフィンランドは本当に幸せな国なのか」堀内都喜子氏の講演会が行われ、教育や子育て、働き方などがとても参考になり、取り入れられそうなヒントになることもありました。

普段は、情報もインターネットや本を通してのものに偏りがちなので、今回参加させていただいて、実際に活動されている方のお話はとても深い学びになりました。



こどもショートステイ



～育児や子育ての悩み、「困った！」を支える家庭支援～

「登別市男女共同参画基本計画」において、「健康的な生活を生涯にわたって送られる社会の実現」の施策として「子育て支援体制の充実」を掲げ、その取組の一環として「こどもショートステイ事業」を実施しています。

日々の子育て、家事、仕事、なかなか思うように両立することは大変ですよね。ほんの小さな悩みやストレス・疲れでも、解消されないまま度重なり、知らないまま無理をしまっていること、ありませんか。親御さんご自身の体調不良や入院、急なイベント事等で、周りにお子さんを預ける親族がいないなどのお困りごとはありませんか。こどもショートステイでは、市が委託した施設や里親宅で 1 日～数日、お子さんをお預かりすることができます。（※世帯の状況や課税状況により利用料は異なります）

《こんなときにご利用ください》

- ・急な出張や入院、遠方への冠婚葬祭などで子どもの預け先がない。
- ・夜泣きなどで眠れない日が続いている。1 日～数日子どもと離れて休養したい。

～まずは相談してみませんか？～

《こどもショートステイのご相談・お申込み》

登別市保健福祉部こども家庭グループこども相談室 0143-85-6677

問い合わせ先

登別市市民生活部市民協働グループ

〒059-8701 登別市中央町 6 丁目 11 番地 Tel : 0143(85)2139

FAX : 0143(85)7674 Mail : simin_danjyo@city.noboribetsu.lg.jp

登別市男女共同参画情報紙「アンダンテ」第 20 号 発行日：令和 6 年 4 月

企画・編集：登別市男女共同参画社会づくり推進会議 アンダンテ企画・編集委員一同